こう言ってしまうと愛がないと思うかもしれませんが、アドバイスをしてはいけないのではなく、必要以上に相手の人生をしょいこまないということです。

助言をしても相手が行動しないからといって怒ったり、不安になったりしないということです。
もし相手が子供で勉強をしなかったり不登校になった時には、将来困らないようにすることは大切です。
そのためには自立心を持たせるような協力が必要になってきます。

要は、相手にきちんと問題を理解してもらって相手に決めさせるということです。
相手に決めさせないと、アドバイス通りに行動して失敗してしまった時に
「お前のアドバイスのせいだ」と言われ、働かない原因にされてしまうかもしれません。
逆に自分で決めて成功すると、勇気をもって決断した結果なので喜びは大きく自身になります。

または、相手が行動しやすいようにサポートするという手もあります。
日本神話にある天岩戸のように、

むかしむかし。太陽の神天照大御神(あまてらすおおみかみ)様や弟の須佐之男命(すさのをのみこと)様、と多くの神さまは一緒に暮らしていました。
そこで須佐之男命様は、あばれて悪さをしていましたが、それを見た天照大御神様はプッツンきて天岩戸(あまのいわと)と呼ばれる洞窟に隠れ、洞窟の中から岩で入口ふさぎました。

太陽の神様が隠れると世の中は真っ暗になり作物が育たたない、また病気がはやりました。
困った神さまたちは、「どうしたもんかねー」と会議を行い、岩戸の前で色々試すことにしました。
まずは、鶏が「コケー」したら太陽が昇るんじゃない？と思い、岩戸の前で鳴かすも、効果なし。
つぎに、天鈿女命(あめのうずめのみこと)様が岩戸の前でまっぱだかで踊り、皆も楽しそうにします。
すると、天照大御神様は「なんだなんだ！」と思い扉を開けました。

そして、世の中が再び明るく平和な時代になったという物語。
追伸：暴れた須佐之男命様は、その後反省し、八俣大蛇(やまたのおろち)退治したとのこと。

説明が長くなりましたが、相手が行動しやすくなるようなことをしてあげるということです。

これは、きじポ～新聞30号で書いた「愛について」と似ています。
愛とは、相手の未来にそったことを見返りを求めずに無条件で与えることでした。
愛とは
①相手の希望を無視しない。
②与えることに満足して、相手の気持ちを考えない。

「課題の分離」
誰かの人生を自分の都合がよくなるようにアドバイスしたりせず、または必要以上にしょいこまない。

以上。